一般社団法人 神緑会会報誌
神戸大学医学部医学科同窓会

神緑会

Shinryokukai News Letter

第12巻 第2号
発行日 2020年9月28日

「マチュピチュ遺跡」 川田 哲己（昭和54年卒）

Contents

祝・ご入学 3
祝・ご卒業 8
半年間を振り返って 10
令和２年度田中千賀子学術奨励賞 12
退職によせて 13
支部会便り 18
クラス会便り 20
神戸大学医学部 部活紹介リレー 26
研修医日記 Vol.2 29
研究者だより Vol.2 31
神緑会員リレー随筆 32
武田学長を囲む会に参加して 33
募金報告 34
CiRA便り 37
10月ホームページ更新 39
編集後記 40

表紙絵「マチュピチュ遺跡」　暁哲・川田　哲己（昭和54年卒）

ペルーにある世界遺産マチュピチュ遺跡を昨年訪れた。15世紀後半に標高2,430メートルの山の尾根に建設されたインカ帝国時代の壮大な建造物である。謎に包まれ幻想的な天空の古代都市を水墨で描いてみた。

祝・ご入学

新入生に寄せる言葉

新入生の皆さんへ

一般社団法人　神緑会　会長　**木戸　良明**（昭和61年卒）

遅くなりましたが、新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

一般社団法人　神緑会（しんりょくかい）を代表して、心よりお祝いを申し上げます。

神緑会と聞いても分かる方は少ないかと思いますが、神緑会とは神戸大学医学部医学科の同窓会のことです。皆さんは入学されると、神緑会の学生会員となられます。

神戸大学医学部医学科の歴史は、昭和19年の兵庫県立医学専門学校の創立に始まっております。昨年には創立75周年ということで、皆さんの先輩である山中伸弥先生に特別講演をしていただき約1,000名の卒業生が集まり盛大な記念式典をポートピアホテルで開催いたしました。その模様は、皆さんにお送りさせていただいたニュースレターで特集しておりますので、ご覧いただけたらと思います。

神緑会という名称は、昭和41年に、当時学生であった前田昌良先生が「限りない前進と、新鮮さを象徴する緑」を楠の葉に見出され、楠町は本学の所在地であり、楠の葉は枯れることのない常緑であることから、神戸大学医学部が今後限りなく発展するように願いを込めて「神緑会」という名称を発案されました。

現在、会員数は学生会員を含め6,800名ほどに達しており、全国の医療、大学、研究機関、行政の場で活躍されておられます。

今回、難関入試を突破し、神戸大学医学部医学科にご入学された皆さんを、私ども卒業生は大変誇りに思っており、学生生活をできるだけサポートしていきたいと思っております。

今年は、新型コロナ感染症の影響で、皆さんの新入生としての大学生活に非常に大きな影響を与えており、授業は遠隔で受けることはできているものの、学生生活は大きな制限下にあることは、私たち卒業生一同も大変心を痛めているところでございます。医学部長の藤澤先生、医学科長の匂坂先生、臨床教育センター長の河野先生を中心に、このような状況下での教育対策を日々考えられておられます。神緑会としましてもできることはなんでも協力していく所存です。

医療現場では、多くの神緑会員の先生方が、新型コロナ感染症に対して最前線で日々奮闘されておられます。先生方のご活動に心より感謝を申し上げるとともに、１日も早い新型コロナ感染症の終息を願い、皆さんの学生生活が１日も早く正常に戻ることを祈念しております。

皆さんは、これから生涯にわたり神緑会員であります。世代は違えど同じ志を持って神戸大学に入学した友人として共に学び、協働していきましょう。よろしくお願いします。

新入生の皆さんへ

神戸大学医学部長
藤澤　正人（昭和59年卒）

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。すでに、５か月が過ぎてしまいましたが、コロナ感染拡大という思いもよらないことで大学に来ることもままならず、大変不安な日々を過ごされていることと思います。授業はすべて遠隔授業となり、君たちにとっては初めてことで戸惑うことの多い毎日だったと思います。教える側も初めてのことでしたが、幸い、遠隔授業により問題なく授業が進められてきているようです。ただ、君たちは入学以来一度も仲間と顔を合わす機会がない状態になっており我々も気がかりでありました。そこで、先日、コロナ第２波が近づいているのではないかという状況ではありましたが、医学部のシスメックスホールで３密を避け、感染対策を取ったうえで１年生のオリエンテーションをさせて頂きました。ほとんどの新入生の方が、参加され皆さんの元気な顔を拝見することができ、教職員も大変うれしく思った次第です。皆さんもようやく仲間と会うことができいい機会になったと思います。しかしながら、これからもコロナの感染はしばらく続くことが予想され今までのような制限の多い大学生活が続くことと思います。

古い話ですが、14世紀にペストが流行したときに大学が休校になったため故郷に帰り２年間を家で過ごしている間にある若者の運命が変わりました。アイザック・ニュートンです。彼は、この２年の間にリンゴが木から落ちるのを見て、偉大なことを発見しました。皆さんもご存じの万有引力の法則です。さらに、驚くべきことに微分積分の考えもこの時に見出しました。また、天才レオナルドダビンチが現れたのもこの時期です。発明家でもあり、画家であり、傑作モナ・リザを残しています。ペストにより、社会生活が大きく変わり、人々に創造の機会と力を与えルネサンスが生まれたのです。今回の、コロナも社会、経済、文化に大きな影響を与え、我々は今まさに新たな社会を模索している時期と言えるでしょう。新入生の皆さんの大学生活は、想像していた大学生活とは全く違うものとなり、戸惑っていること思いますが、ウィズコロナの時代を受け入れてそれに適応していくしかないと思います。ニュートンやダビンチのような大発見は難しいと思いますが、このコロナの時代をどうやって過ごすか、社会はどのように変わるか、医療はどのように変わるかなどいろいろとじっくり考えてみてください。何かを新たなものを見つけられるかもしれません。入学早々からいろいろと大変なことと思いますが、我々教職員として全面的にサポートして参りますのでくれぐれも感染対策をしっかりとして節度ある行動をとり、コロナ終息まで健康で学生生活を過ごしてください。

医学部医学科は、医学・生命科学分野の幅広い高度な専門的知識・技術を身に着け、高い倫理観並びに旺盛な探究心と想像力を有する「科学者」としての視点を持つ医師及び先端的・学際的研究を推進できる研究者を養成しています。最近では、学部入学段階から卒業・大学院までの一貫した教育の取組としてMD-PhDコースや基礎医学研究医特別コースを設け、基礎医学研究者の育成を積極的に行っています。また、兵庫県との連携により医師不足地域の地域医療充実のための熱意をもって地域医療を担う医師の育成にも取り組んできております。学生生活は、これから６年間続きます。大きな夢を持って、個々皆さんの大志の実現のためにしっかりと医学知識と技術のみならず豊かな人間性を身に着けコミュニケーション能力を磨き優れた臨床医あるいは基礎医学研究者になられることを期待しています。

最後に、教職員一同、コロナ感染の早期終息を心から願い、一日も早く君たちの元気な笑顔と再会できることを楽しみにしています。

新入生の皆さんへ

神戸大学医学部医学科長
匂坂　敏朗（神緑会　特別会員）

新入生の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。新型コロナウイルス感染症の影響で、平常どおりの大学での講義、実習ができなくなりました。期待していた部活動、多くの友人との交流などが制限される中で、精神的に厳しい生活を送られていることと思います。このような状況ではありますが、皆さん、それぞれが高い志を持って神戸大学に入学されたと思います。入学時のその志を忘れず、これからの６年間を過ごしていただきたいと考えています。何事にも揺るぎない志を持つことによって、その志に励まされ、勇気づけられ、その志が現実のものになります。６年間、自分を信じ、肯定的信念を持ち続け、是非とも、その志を現実のものにしていただきたいと考えています。高い目標に挑戦し、自己を高めていきましょう。

このコロナ禍において、私たち、医学部教職員全員が協力して、学内外に先駆け、2020年度当初からオンラインによる遠隔授業で医学教育を進めています。学生、教員、ほぼ全員が初めての試みであり、十分伝わっているところもあれば、何か足りないところもありますが、模索しながら続けていく中で新しい教育の方向性が見えてきました。従来の学生全員を一同に集めた講義を、双方向性のあるオンラインあるいは時空間の制限のないオンデマンドで行い、演習、実験、実習を少人数の対面で行うという、学生主体の反転教育形態が見えてきました。これを機会に、個々の学生の学修を最適化するためにも、オンライン、オンデマンド、対面型演習、実験、実習を組み合わせたブレンド型学習等の新しい教育形態を築きたいと考えています。よりよい教育環境を築くことにより、皆さんにとって、自らの可能性を最大限発揮できる場を是非とも提供したいと考えています。

神戸大学医学部医学科のidentity は、“科学者としての視点を持った医師、医学研究者”であります。今回の新型コロナウイルスのように、医学・医療には、必ず解決しなければならない未知の問題が起こってきます。皆さんには、その時に解決の方法を導き出せる、科学的な考え方を身につけた医師、医学研究者になっていただきたいと考えています。科学的な考え方を修得するためには、何かに興味を持ち、そこから明らかにしたい疑問を持つ必要があります。教科書、講義の課題等に積極的に取り組み、何か一つでいいので興味を持ち、独善的にいろいろなことを考えてください。疑問が必ず浮かんでくるはずです。先に結果を予想できるような疑問ではなく、全く結果が予想できないような疑問を持ってください。それは現在正しいと信じられている常識を覆すことになるかもしれません。それこそが科学的な考え方の最初の一歩です。いろいろと考え抜いてください。そして、一緒にその疑問を実験して試しましょう。

最後になりますが、皆さんは神戸大学の宝です。皆さんが神戸大学の将来を決める、担うことになります。是非、充実したよりよい学生生活を送ってください。卒業時に、皆さん全員に、神戸大学に入ってよかったという気持ちを持っていただくよう、私たち、医学部教職員一同、全力で応援いたします。

新入生に寄せる言葉

神戸大学医学部附属病院長
平田　健一（昭和59年卒）

新入生の皆さん、神戸大学医学部ご入学誠におめでとうございます。厳しい受験勉強の末、神戸大学医学部に合格されたことは、新入生の皆さんはもちろん、ご家族にとってその喜びも一入だと思います。その一方、新型コロナウィルス感染が世界的に拡大し、世界中で社会活動が制限されました。日本でも緊急事態宣言が発出され、生活様式は一変しました。入学式は中止となり、自宅待機が続き、クラブ活動も行えないなど希望に満ちた新しい大学生活のスタートが遅れたことは、皆さんにとって非常に残念なことだと思います。皆さんの長い医師人生において、将来いろいろな危機や困難に遭遇すると思います。不自由でストレスの多い生活だと思いますが、今回の経験が障害を乗り越え、未来を切り開く糧になると信じています。

神戸大学医学部附属病院も新型コロナウィルス感染の拡大により精神的、肉体的ストレスも大きい中、感染対策を講じながら救急医療や多くの重症患者さんにとっての最後の砦として高度医療を提供しています。また、大学病院にとって教育は重要なミッションであり、教職員は医学生の皆さんの講義、実習に全力で取り組んでいます。対面での講義や実習が難しい際にはオンライン授業を取り入れ、病院内での実習も感染対策を講じながら再開しています。COVID-19 時代の学習方法は大きく変化していくことが予想されますが、学生に対する教員の情熱は変わりません。附属病院は、総合臨床教育センターや地域医療活性化センターを中心に関連病院と連携し、将来の医療を担う医療人を育成する卒前から卒後にかけてのシームレスで魅力的な教育環境を提供しています。

神戸大学医学部附属病院は明治２年に開院した神戸病院を前身とし、兵庫県立病院、国立大学病院へと発展し、昨年（令和元年）創立150周年、神戸大学医学部は創立75周年を迎えました。このように、伝統ある神戸大学医学部附属病院は、多くの先輩方の弛まぬ努力によって発展してきました。神戸大学医学部は世界で活躍できるような広い視野を持った人間性豊かな医療人を育成することを目標としています。神戸は、国際的にも開かれており、多彩な文化を受け入れる懐の広さをもつ街だと思います。新入生の皆さんもこの長い歴史の中で多くの諸先輩方が努力し築いてこられた歴史を受け継ぎ、国際的な視野を持った医師として世界には羽ばたいてほしいと思います。

一方で、神戸大学医学部附属病院は地域医療に貢献できる優秀な医療人を輩出する教育機関として、人材育成と診療支援を行っています。2014年に開設された地域医療活性化センターを拠点として兵庫県などの自治体と積極的に連携し、地域枠推薦学生10人を受け入れ、地域医療を担う関係部署と協力し、人材育成と診療支援を推進してきました。今後も地域医療を担う人材の教育環境を発展させたいと考えています。本院は、平成６年に特定機能病院、平成19年にはがん診療連携拠点病院となり、関西医療圏においてその中核としての診療機能を担っています。平成29年、神戸大学大学院医学研究科・医学部は、がんに対する先進的外科的治療の推進、新規医療機器の研究・開発、人材育成を目指し、ポートアイランド地区に診療・研究・教育の新たな拠点として、国際がん医療・研究センター（ICCRC）を設置しました。医学部附属病院はICCRCと緊密な連携をとり、がんに対する先進的外科的治療の推進、新規医療機器の研究・開発、人材育成を推進しています。また、本院はがんゲノム診療拠点病院の指定を受けるなど多くの最先端医療に取り組んでいます。さらに、本年度は臨床研究を推進する上で必要な臨床研究中核病院の承認を受ける予定です。このように、新入生の皆さんが将来優れた医師や研究者どなって活躍できる環境が整っています。ぜひ、未来に夢を持って学生生活を送っていただくことを期待しています。皆さんの同窓会である神緑会は、神戸大学医学部生の教育環境の改善や海外留学の援助など多大な支援をしてくださっています。神緑会の先生方におかれましては、日頃より神戸大学医学部附属病院の運営、学生教育の支援に対して、多大なるご支援を賜り、心より感謝申し上げます。新入生の皆さんが充実した学生生活を送り、国家試験に合格し、様々な分野で活躍されることを期待し、応援しています。

1年生オリエンテーションの開催について

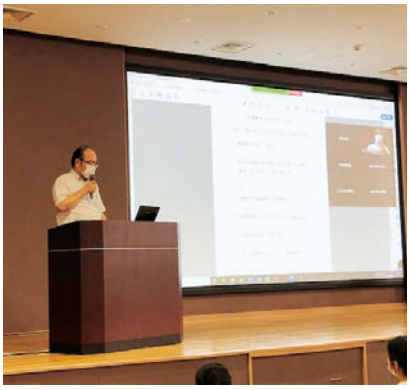
新歓委員副委員長　**中西　真帆**（医学部医学科４回生）

7月17日にシスメックスホールにて１年生のオリエンテーションが行われました。例年ならば４月１日、２日に新歓合宿として行われていますが、本年は新型コロナウイルスの感染拡大のため中止となっていました。１年生の皆が晴れて大学に入学したにも関わらず、学校には１度も行けずに不安な状態が続いてる中でこのような機会を設けることができ新歓委員としても嬉しく思います。

当日は医学部長、学年の担当の先生方からの講話に始まり、新歓委員の企画として大学生活の紹介、１年生の自己紹介、１年生からの質問コーナーなどを行いました。先生方の講話では初の対面でのお話を皆真剣に聞いていたと思います。また、４年生の企画では実際に同級生と会うのは初めてという子がほとんどで緊張している様子も多少ありましたが、４年生への質問を考える時間などでは打ち解けつつ楽しくお話をしていて安心しました。

今回は感染防止のためzoomを併用しながらという初の試みで少し手間取ってしまう部分もありましたが、１年生の皆に少しでも有意義な時間を過ごしてもらえていれば光栄です。

そして、今回の企画ではフレッシュでエネルギーのあふれている１年生と交流することができ、私自身も３年前を思い出し楽しむことができました。今後もコロナウイルスの感染状況で先行きが不安な部分もありますが、状況に応じてまた１年生のメンタルをケアできるような機会を設けることができれば幸いです。



祝・ご卒業

学位記授与式　醫王賞授与式

神戸国際会議場で予定されていた令和２年３月25日学位記授与式および神戸ポートピアホテルで毎年行われていた謝恩会は残念ながら中止となりました。神緑会では、神戸大学医学部医学科令和元年度謝恩会委員委員長の斉賀佳穂さんと、澤見香奈さんで打ち合わせをし印鑑付きボールペンを卒業生記念品として、神緑会の三役（会長、副会長、常務理事）から贈呈する予定でしたが新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、外来診療棟６階大講義室で行われた学位記授与式で医学科教務課学生係の協力をえて贈呈することとなりました。当日の写真を教務学生係より提供ただきましたのでここで会員の皆様にご報告いたします。

第53期生は、120名、学術誌でも報告しますが第114回医師国家試験を新卒では115名の学生が通過しました。切磋琢磨しながら医師としての第一歩を踏み出しているかと思うと大変誇らしく思います。

学位記授与式と、毎年成績優秀者２名に送られる醫王賞授与式の様子です。

半年間を振り返って

一般社団法人　神緑会　会長　**木戸　良明**

新型コロナ感染症に国民全てが大きく影響を受けた半年間でした。特に、神緑会員の先生方は、医療関係者としてご苦労されることも多かったと拝察いたします。

今年の２月はじめまでは、新型コロナウィルスは中国を中心に広がりつつあったとはいえ、まだ私たちは、通常の生活をしており、２月１日には神緑会臨時総会および新春学術講演会、懇親会を盛況のうちに開催することができました。２月の中旬以降には中止になる研究会も出始めておりましたので、本当によく開催できたなと思います。それ以降のことは、会員の先生方はよくご存知の通りです。

神緑会として、心が痛かったのは、３月の卒業式および謝恩会の中止です。学生さんにとっては、学生としては最後の卒業式で、６年間の思い出を振り返り、仲間や恩師とのお別れと感謝の場であり、学生自身が準備してきただけに残念であったと思います。神緑会からは、卒業記念として "Kobe univ. med. 53rd" と刻んだ印鑑付きのボールペンを贈らせていただきました（写真①）。６年生の謝恩会の委員と話したときに、品物よりも５３期生であることを残して欲しいと言われました。やはり神戸大学医学部医学科５３期生であることを誇りに思っているのだなあと印象に残りましたし、神戸大学を卒業したという誇りをいつまでも持って医師として頑張って欲しいと思います。学位記は大講義室で個々に受け取りに来る形式となりましたが、本ニュースレター内の「学位授与式」の写真にありますように小規模ではありますが、「久しぶり、頑張ろうな」という感じが伝わってきます。

新型コロナ感染症はその後も増加し、４月７日には緊急事態宣言が発出されるという事態となりました。附属病院の桜は今年も綺麗に満開となりました（写真②）が、入学式は中止となり、「新型コロナ感染拡大防止のための神戸大学の活動制限指針」は５段階のうちのレベル４（制限大）となり、学生さんの入校は禁止で自宅待機となり、授業は遠隔授業となりました。今では慣れたZoomやWebexですが、当初は教員、学生ともに手探りで授業や会議を行なっていました。新入生は、大学に入学した実感のないまま授業だけが遠隔で行われていくという状況で、大学生活をエンジョイできない状態が今も続いています。本ニュースレターに新歓委員会の中西さんからの寄稿がありますように、先輩や教員の尽力もあり７月17日に新入生のオリエンテーションがシスメックスホール行われました。今後、with コロナが続くことが予想されますが、一刻も早いキャンパスライフが始まることを願っています。

緊急事態宣言は１ヶ月半ほど続き、５月25日に緊

卒業生記念品

「刻印」印鑑付きボールペン

写真①

写真②

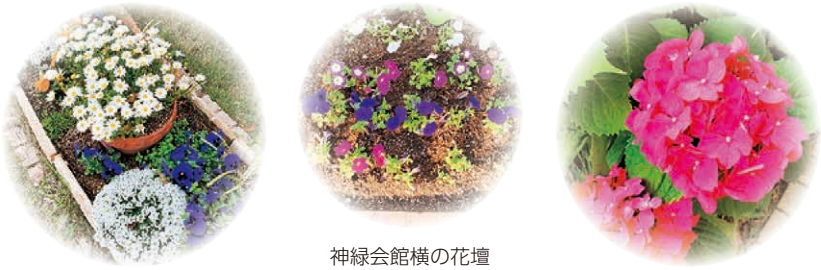
急事態解除宣言が発出されました。その間、５月の中旬には、附属病院の隣の湊翔楠中学校から横断幕のエールをもらいました（写真③）。附属病院からもお礼のメッセージをお返ししました（写真④）。これは神戸新聞にも取り上げられましたので、ご存知の先生方も多いかと思います。

いったんおさまったかに見えた新型コロナ感染症ですが、６月の後半から再び増加し、８月のお盆の頃をピークに第２波が今も続いています。なかなか日常は取り戻せませんが、New Normalと言われるようにwithコロナの中でも感染対策をとり、Zoomなども使いながらできるだけ日常を取り戻していくという動きになりつつあります。感染者数はまだ多いのですが、神戸大学も現在の活動制限指針レベル２（制限小）からレベル１（一部制限）に引き下げることを検討しており、学生生活を取り戻すようにいろいろな方策を考えています。医療の現場の先生方は、半年以上も新型コロナ感染症に対応され、大変なご苦労をされていると存じます。一刻も早い終息を願っております。

最後に、神緑会事務局も新型コロナ感染症の影響を受け、時短勤務などを続けており、予定通りに仕事が進まないという状況が続いております。しかし、神緑会事務局もNew Normalと考え方を変えて、より効率的に仕事ができるように取り組んでいるところです。とはいえ、神緑会総会の延期、助成金審査や本ニュースレターの発刊も遅れまして、会員の先生方にはご迷惑をおかけしております。このような状況ではありますが、これからも神緑会会員を繋ぐ同窓会としての役割を果たしていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

写真③

写真④



神緑会館横の花壇

令和２年度田中千賀子学術奨励賞

受賞に寄せて

研究業績
「小児腎疾患における分子遺伝学的研究」

神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野
特命助教　**堀之内　智子**（平成22年卒）

この度は令和２年度田中千賀子賞に選定いただき、大変光栄に存じます。関係の先生方に厚く御礼申し上げます。私は2010年に本学を卒業後、姫路赤十字病院で初期臨床研修・小児科後期研修を行いました。2014年に医学研究科に入学後は小児腎臓学領域の分子遺伝学的研究を開始いたしました。とりわけAlport症候群などの遺伝性腎疾患に関しては、phenotype-genotypeの連関を詳細に検討するだけでなく、*In vitro*や*In silico, In vivo*の解析を組み合わせることで発症メカニズムを解明してきました。さらに、小児慢性腎疾患の中で最も発症頻度の高い小児特発性ネフローゼ症候群においては、ゲノムワイド関連解析（GWAS）を行い、HLA class II risk/protective alleleの存在と、腎糸球体スリット膜の重要構成因子であるネフリンをコードする*NPHS1*が疾患感受性遺伝子であることを明らかとし、現在は免疫機能・構造機能の両面からその機能解析を行っています。近年、一つの遺伝子の異常が単一遺伝子病からCommon diseaseにわたり広いスペクトラムを持って関わることが非常に注目されています。その両面からアプローチできる知識と研究技術を身につけ、さらには臨床現場の患者さんも含め、様々な角度からシームレスにアプローチすることで新規治療の開発につながるような研究を遂行できるよう、精進していきたいと考えています。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

退職によせて

退職にあたって

公立学校共済組合近畿中央病院　病院長
甲村　英二（神緑会　名誉会員）

2020年３月末をもって定年退職いたしました甲村英二です。私は2002年１月に脳神経外科教授として着任しました。着任当初は、定年年齢は63歳でしたが、在任中に65歳に延長され、しかも私は４月生まれなので65歳の誕生日を過ぎてから11か月も在職していることになり、18年余りにわたりお世話になりました。新型コロナウィルスの流行により最終講義をはじめとした行事は中止となり、皆様に直接ご挨拶をする機会が失われてしまいました。神緑会会員の皆様をはじめ、関係するすべての方々にこころからお礼申し上げます。また至らなかった点、ご迷惑をおかけした点も多々あったかと思いますのでこの場を借りてお詫びいたします。

私は三代目の脳神経外科教授ということで、『穀潰しの三代目』と言われないように私なりに努力してまいりました。着任当時は医療に対する社会からの見方が従来とは大きく変化し医療界へのパッシングが増加していく受難の時代の始まりでした。医療事故が社会的にクローズアップされましたし、医学研究、研究資金の透明化も求められました。当時の年間手術件数は150件程度で在院日数は40日を超える状況でした。おりしも国立大学法人化を控えて病院経営の改善、診療実績の増加が急務であり、教室スタッフと共に適格な手術適応と合併症の防止に努めて成績を向上させて着実に手術件数を伸ばすことができ、2008年ごろからは年間400件前後の手術数を維持できるようになりました。神緑会会員の皆様方からも多くの患者さんのご紹介をいただき誠にありがとうございました。私の専門とする頭蓋底腫瘍についても、耳鼻咽喉頭頸部外科、形成外科のすばらしいスタッフのサポートを得て、国内有数の診療センターとなり県外からも多くの患者さんの紹介を得ています。

医師不足への対応も着任以来の問題でした。2004年に開始された新医師臨床研修制度による初期臨床研修必修化は、脳神経外科のように初期研修で必修とならないマイナー診療科にとっては大問題でした。関連施設の集約化、選択と集中が必要なことは言うまでもありませんでした。県北部や淡路島では自然に脳外科手術施設の集約化が生じましたので、こちらは継続的な人材の供給を考えるだけで済みました。しかし都会地では小規模施設が乱立しているといっても過言ではなく、撤退を目指す施設の院長先生に面会して事情を説明しご理解いただく必要が生じましたが、なかなか大変でした。教室員がローテートする施設が当初は29施設ありましたが、時代の流れをご理解いただいて、現在は20施設になりました。各施設それぞれに特徴はありますが、地域医療を担う中核的施設には４－５人の配置を企図しました。今後は働き方改革もあり、都会地域でもさらなる人員の充足、センター化は実現すべき課題と思います。

私の教育指導スタイルは事細かく口に出してあれこれ教えるタイプでありません。見取り稽古というか、自分のやっていることを見て何かを学んでほしいと考えてきました。参加型実習を重んじる現在の医学教育論から見れば効率の悪い古臭いタイプかもしれません。この18年間のなかで、人材育成に関して私が考えてきたことは、「自走式人材」です。○×式回答の教育を受け、教科書通りに動くことが最良と考えている学生が多いことを感じてきました。何事もマニュアルが無ければ行動できない人間が多数認められるとも言われています。脳外科医を志した医師には、自ら考え計画し行動できることを期待してきました。研究に

おいてもできるだけスタッフの自主性を尊重したつもりです。押し付けられたものではなく自ら選んだ興味あるものであれば、研究でも臨床でも継続した仕事が続けられるはずと考えています。旧帝大系のように大人数で構成されている教室ではないので、研究、診療についても選択と集中は必須となりました。スタッフならびに大学院生の頑張りにより、積極的に学会発表、論文発表に取り組んでいただくことができるようになりました。数多くの業績を上げる優秀な人材が育ってきたと考えており、『穀潰しの三代目』と言われずに済んだかなと密かに安堵している次第です。

４月からは伊丹にあります公立学校共済組合近畿中央病院に勤めています。脳外科の診療を行うとともに、病院長として管理運営、さらに市民病院との統合事業を進めていくことになっておりますが、新型コロナウィルスの影響をまともに受けて先の見えないかじ取りをしている現状です。今後も神緑会の皆様方には何かとお世話になると思いますので、これまでにも増して、よろしくお願いします。長い間ありがとうございました。

退職によせて

神戸大学名誉教授
林　祥剛（昭和56年卒）

令和２（2020）年３月31日に神戸大学を定年退職いたしました。神緑会会員の皆様には、大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

私の入学は、まだ大学紛争の痕跡がかすかに見られる、キャンパスに少し荒涼とした風景が残る、昭和50（1975）年４月１日です。入学試験時の面接で「高瀬舟についてどのように思うか」と質問されたことを昨日のように覚えています。基礎医学の系統解剖、組織学のスケッチなど、多くの学生がそうであったように連日、夜遅くまで実習を行った事を覚えています。当時は、国鉄等がストを行い、電車が動かなくなることがありましたが、医学部は休校にならなかったので、ストの時は大学の近くに下宿をしている友人宅に泊めてもらうなど随分と苦労して登校しました。すこぶる優秀で高い志を持った素晴らしい同級生に恵まれ、彼らと一緒に学部学生時代を過ごしたことは、私の大切な財産になりました。２年の組織実習、３年の病理実習の時に形態学が好きになり、将来は病理診断を専門にする医師になりたいと考えて、卒業時に病理学の大学院に進もうと決心しました。

昭和56（1981）年の正月もあけて直ぐ、まだ寒い日に、私は学部６年生の３学期を迎え、浦野順文先生の神戸大学病理学第一講座教授室に「博士課程の大学院入学試験で病理学を志願させて下さい」とのお願いとご挨拶に伺いました。浦野先生は、いつも通りの、快活で明るいお声でとても喜んでくださり、血液病理学の講義スライドを持ち出されては、熱心にご説明していただきました。先生は、「学生時代に慢性骨髄性白血病の女の子の患者さんを受け持ったことが、病理学、特に血液病理学を志した切っ掛けになったこと、君が病理学者として一人前になるまではなんとか見てあげられるだろう」ととても率直にご自身のことを語られました。その後、浦野先生がお若いときに肺結核を罹患し、その手術で輸血をして慢性肝炎を患われるようになったとお聞きして、このお言葉がどのような意味があるか自分なりに考えて有難さが胸にしみ、浦野先生のことが一層好きになりました。程なく、先生より血液病理学の英語の書籍が贈られました。医師国家試験と大学院入試が迫っていましたが、うれしくてその本を熱心に読んだことを覚えています。大学院入試の発表が終わり浦野先生のもとに挨拶に伺ったら、「君は大学院入試をとても良い成績で合格した」とおっしゃられました。それからの数か月は会う人ごとにそのように私をご紹介して頂きました。なんとか合格できたことを私自身が一番良く分かっていたので、とても恥ずかしい気持ちになりましたが、浦野先生の優しい心配りを嬉しく感じました。浦野先生は母に大学院合格のお祝いの電話をかけてくださり、母は、「この子は、内科か外科をするものと思っていた」と話したとお聞きしました。私は何事も誰とも相談せずに決めるので、母は私が何科に進むかを全く知らず、浦野先生の突然のお電話にいささか驚いたようでした。入局早々にある名誉教授の剖検を浦野先生と行い、シュライバー（所見の筆記）を務めることとなりました。つい数か月前まで講義を受けた扇型の第一講堂の講義台にご遺体を乗せて多くの教授が立会の下で行なわれました。剖検が始まるとフランスに留学され、フランス語に大変な愛着がある浦野先生は、いきなりフランス語で剖検所見を述べられました。浦野先生は、私が大変戸惑っているのに気付かれ、「所見は、全部覚えてるから、心配しなくてもよい」ということを、優しく、そして誰にも気づかれないように、そっと伝えてくださいました。

浦野順文先生

その後、病理の地方会で横紋筋肉腫の症例を発表する機会が与えられました。ある先生が質問に立ち、「腫瘍細胞は、糖を持っていますか」と尋ねられました。私は教科書的な知識だけは持

ち合わせていたので「腫瘍細胞は糖を持っています。PAS陽性でした」と答えました。「ジアスターゼ消化試験はされましたか」と再び尋ねられました。私が「ジアスターゼ消化試験は、行っていません」と答えると、「ジアスターゼ消化試験を行わなければ、PAS陽性物質が糖かどうか判るはずがない」と大変な勢いで怒られました。助け舟を出していただけないかなあと、浦野先生のほうを見ると、浦野先生は、中央の一番前の席で高らかに笑っておられました。そのご様子を見て私も何故か愉快な気持ちになったのをよく覚えています。入局直後から浦野先生には、多くの会議に同行させていただき、多くのご高名な先生にご紹介していただきました。この頃に全国の病理学教室、病院病理部で所蔵され、病理医、臨床医に広く利用されてきた骨髄組織病理アトラス（文光堂）を分担執筆させていただきました。また、神戸のご自宅でクリスマスパーティーを開いていただき、奥様のとても美味しい手料理を頂きました。今もそれは暖かい、とても楽しい思い出となっています。昭和58（1983）年に浦野先生が東京大学に戻られるのに伴って私も居を東京に移しました。最初の下宿は、弥生門を超えた農学部近くの「西片」にありました。江戸時代、道の西側のみ大きな大名屋敷があったのが「西片」の地名の由来となったとのことです。６畳一間で、家賃は月９千円でした。浦野先生にお話すると「そのような狭い部屋では病気になるのではないか」と大層心配していただきました。「いずみ荘」という付近では最も古い木造建築で、トイレは共同で 風呂はなく、樋口一葉が使ったという井戸が近くにある、菊水湯という銭湯までぶらぶらと歩いて通いました。この銭湯は、今は取り壊されてしまいました。「いずみ荘」の女性の管理人の方がとても親切で快適でしたが、そこに１年ほど暮らし、次に湯島４丁目に移り住みました。 大学のすぐ横、龍岡門（当時、現在は再建された鉄門）を出て、無縁坂を下り不忍池に出る道の途中、文教体育館のあった通りを湯島天神の方向に歩いた切通し公園を少し通り過ぎた所に住んでいました。森鴎外の雁やさだまさしの歌の舞台になった場所です。私はほとんどの時間を病理部で病理診断や臨床とのカンファランスなどを行うことで費やし、バス通りを挟んだ病理学教室に戻るのは解剖をする時ぐらいになってしまいました。休日でも剖検があると、当番でもないのに行いました。そのうちの１例で神経の変性疾患の剖検例を論文にまで作成することが出来ました。幸運にも最初に投稿することになった、最も望んだ雑誌に論文が掲載されることになりました。教室の友人から、「論文を投稿する前に浦野先生に良く校閲して頂いてから投稿するものだ」と注意されました。恐る恐る浦野先生の前に出て報告したら、いつもと変わらぬ優しさでお褒めの言葉をいただき、ありがたいことだと思いました。病理部での診断、臨床医との臓器別カンファランス、剖検と忙しい日々を過ごしていた私の生活を浦野先生は、それはそれで良いことと思っていただいてましたが、同時に学位の研究をどのように進めるかをお考えいただいていることをお聞きしました。ある日、突然、浦野先生に呼ばれ、「学位研究の指導を頼んだので医科研の所長の小高健先生のところに挨拶に行くように」とおっしゃられました。それから学位の仕事としてウイルス発癌の実験を行うために小高先生の教室に通いました。感染病理学をされている青山友三先生が主催されている教室が同じ医科研で小高先生の研究室のすぐ近くにあったため、毎日のように立ち寄らせていただきました。青山先生の教室では、夕方５時頃からよく、近くの研究室より多くの研究者が集まり、熱心な議論がされていました。青山先生の研究室で助教授をされ、後に国立感染症研究所所長をされた、倉田毅先生に初めてお会いしたのもこの時です。先生は、いつも、とても熱心に研究されておられました。倉田先生には、その後、感染症の国際共同研究プログラムを遂行するときに誠にお世話になりました。学位の研究は順調に進めることができましたが、浦野先生は、体調が徐々に優れなくなり、手術を受けられ、抗がん剤の持続投与を受けられるようになられました。昭和62（1987）年９月、昭和天皇のご病気に伴う病理検査という大変重い任務があり、緊張感のある日々が続きました。その年の末頃には、先生の体調は明らかに悪くなっていましたが、それでも毎週ある教室の抄読会や剖検会には出席されました。あくる年の昭和63（1988）年１月13日、浦野先生は、腹水が溜まり、黄疸がおありなのに、多くの人が記憶にとどめる最後の学生講義をされ、病理学者として生と死について語られました。講義が終わられた後、教室に立ち寄られ笑顔でお声を掛けていただき、入院先の病院に戻られました。その直後、大学から私の学位（医学博士の称号）が認められたとの知らせを受け、迷った末に浦野先生の病室に直接お電話して報告させていただきました。浦野先生は、「おめでとう、おめでとう」と２回おっしゃられましたが、急にお声が聞こえなく

なり、私はそのまま電話を切らざるを得ませんでした。それから数日後の早朝に教室の先輩であり、大切な友人でもある岡輝明先生からお電話があり、浦野先生がお亡くなりになられたことを知りました。お通夜の真っ暗な夜道に提灯をもってお悔やみに来られた方の道案内をしたこと、その後のお葬式の情景は、辛い記憶として今も鮮明に思い出されます。

カナダ国カルガリー大学生化学教室（玉置大器教授、平成元(1989)年－平成３(1991)年)、国立オーストラリア大学 The John Curtin School of Medical Research (William Doe教授、平成７(1995)年）で最先端の分子生物学を学びましたが、病理診断を教育、研究、臨床活動の中心に据え、平成４（1992）年に神戸に居を移しました。神戸大学医学部病理学第一講座で伊東宏教授のもと小児病理学、外科病理学を学び、附属病院病理部で埴岡啓介先生（前明石市立市民病院)、大林千穂先生（現奈良県立医科大学教授)、鹿股直樹先生（現聖路加国際病院）とともに、肝臓疾患、リンパ網内系疾患、造血疾患、婦人科疾患等の病理診断に参加しました。伊藤智雄教授が北海道大学より神戸大学病理部部長として赴任された後には、附属病院病理部での骨髄の病理診断を担当することになりました。梶本和義客員准教授（現兵庫県立がんセンター病理部部長）とともに、前白血病状態の骨髄病理組織変化、骨髄増殖性腫瘍の骨髄病理組織変化による亜分類や、その疾患発生の分子遺伝学的機序や特徴について臨床医とともに解析研究を行ってきました。肝臓の病理については、森亘教授、浦野順文教授の元で数多くの剖検、生検症例を経験し、神戸大学赴任後、具英成神戸大学名誉教授（当時肝胆膵外科学分野、現甲南医療センター院長)、金守良先生（神戸朝日病院会長)、尹聖哲先生（当時第２内科、現加古川医療センター）らの知己を得て本格的に研究を開始しました。肝臓疾患の病理診断や画像診断、治療については、内科医、外科医、放射線科医とともに学内外の研究会やセミナーを活発に主催しました。

伊東宏名誉教授（病理学第一講座、外科病理学分野)、前田盛名誉教授（分子病理学分野）ら恩師であり素晴らしい先輩、優れた友人や同僚、多くのとても優秀な学生に囲まれて大変幸せな、充実した日々を過ごさせていただきました。堀田博名誉教授（微生物学分野、現甲南女子大学）には感染症や国際交流活動など多方面でご指導をいただき、その後の人生の大きな糧になりました。堀田先生のご指導なしには、国際的な感染症研究の領域で活動することはできなかったと大変感謝しています。松尾雅文名誉教授（小児科学分野、現神戸学院大学)、森康子教授（臨床ウイルス学分野)、勝二郁夫教授（感染制御学分野)、板倉英世先生（長崎大学熱帯医学研究所)、木下タロウ先生（大阪大学微生物病研究所)、眞庭謙昌教授（呼吸器外科学分野）にも多くのことをお教えいただきました。病理医として附属病院病理部で働くときに、いつも温かく迎えていただいた伊藤智雄教授（附属病院病理部部長、病理診断学分野）や病理部構成員の皆様、長年にわたりお助けいただいた横崎宏教授（病理学分野）に心より感謝いたします。また、新医学研究コース、基礎配属で私の教室を選んでくださった学部学生、研究生や大学院博士課程で共に学んでいただいた多くの学生には、楽しい日々を共に過ごさせていただいたことに感謝いたします。大学院医学研究科病理病態学分野、感染病理学分野での教育、研究、臨床を支えていただいたのは、梶本和義先生、Youdiil Ophinni先生（病理病態学分野、現Todd Allen's Laboratory in Ragon Institute, Harvard University)、矢野嘉彦先生（感染病理学分野)、山岡政興先生、内海孝子先生（J-GRID)、曹永恒先生、栗山雅光先生、吉田一子様、早坂直美様です。特に矢野嘉彦先生には、彼の大学院学生時代から、助けていただき、私のほとんどの仕事は、矢野先生がいなければできませんでした。令和元（2019）年に発足した大学院保健学研究科国際感染症対策分野も担当させていただき、ここでの国際共同研究を支えていただいた亀岡正典教授、靭千恵先生、小瀧将裕先生、白川利朗教授（科学技術イノベーション研究科)、重村克巳先生には大変お世話になりました。神戸大学の益々のご発展を期待いたします。

左から伊東宏先生、林、金守良先生

支部会便り

中央支部・神緑会港島支・支部

長野　徹（平成元年卒）

皆様初めてのご挨拶となります。神戸大学病院がある神戸市中央区にはもちろん中央支部があるのですが、他の区、あるいは地域と異なり、中央市民病院をはじめとして労災、日赤、神鋼記念、移転してきたこども病院など大きな医療機関が多数存在しどれくらいの神緑会員が在籍しているのか把握が困難な状況にあります。私が10年前から皮膚科部長として在籍しております神戸市立医療センター中央市民病院にも京都大学OBの先生が多いのはもちろんですが、多数の神緑会員がいるはず？（おそらく30名以上）と考えていました。職員食堂で見かける諸先生の中にも神戸大OB/OGがおられることに気付き脳神経内科の石井淳子先生（H21卒）や総合内科の進藤達哉先生（H25）にお声がけし一度神戸大OB/OGで集まろうか、という話になりました。令和元年６月にポートピアホテル布引の間にて神緑会港島支支部（仮）を開催いたしました。当日、初めはぎこちなかったものの後半からは多くの先生方とつながりが持てた気がいたします。当院のような大病院では診療科というたてのつながり、あるいは研修同期といった横のつながり以外に大学同窓といった斜めのつながりも必要で、困った患者さんを他診療科に相談する際に大変心強いものです。定期的に開催できるよう努力してまいります。

当日参加者：

長野　徹（Ｈ１皮膚科）、尾原信行（H15脳神経内科）、小坂博志（H15皮膚科）、金　基泰（H17循環器内科）、常盤麻里子（H19乳腺外科）、山下大祐（H20病理診断科）、井本寛東（H25血液内科）、進藤達哉（H25総合内科）、西久保雅司（H27総合内科）、古岡慶子（H28皮膚科）、西浦直紀（H29循環器内科）、片上隆史（H29神経内科）、西野彰悟（H29病理診断科）、馬淵彰悟（H29麻酔科）、久保賢哉（H30研２）、谷村昌哉（H31研１）、南井崇宏（H31研１）でした。

正式な支部ではありませんので神緑会誌に投稿・掲載をお願いすることはためらわれましたが、中央支部長の高田輝雄先生（S56卒）のご厚意で投稿させていただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

（文責　平成元年卒　長野　徹）

支部会便りにご寄稿いただきありがとうございました

今号では、支部会便りに中央支部から港島支支部（仮）便りをご寄稿いただきました。
長野先生ありがとうございました。
神戸市立医療センター中央市民病院は皆様ご承知のとおり、緊急事態宣言が発出された際、兵庫県下における中枢の重要な拠点として最前線でご活躍いただきました。
今後もご活躍の情報をお寄せいただけると幸いです。

広報委員会よりお知らせ

■支部会便りについて
新型コロナウイルス感染症の影響で支部会の開催が延期または中止になっているかとご推察します。
新型コロナウイルス感染症についてはまだ予断を許さない状況ではありますが、次号以降も、各支部の取組や現状をぜひご寄稿ください。

クラス会便り

昭和24年卒クラス会だより

クラス代表　坂上　明（昭和24年医専卒）

頑張って下さい!!!

1．羽ばたく神戸大

医化学の西塚教授の活動期以後は暫く音無しの構えでしたが、昨年（2019年）から色々とマスコミに取り上げられるようになりました。TVや地方版では糖尿病内科の小川教授による脱力の仕組みの解明、総合循環器内科では“試してガッテン”で善玉コレステロールの働き方を変える方法 —— 現在国循と共同研究中、善玉といえども必ずしも全部が同じ働きをしていない。その他日経新聞ではゲノム編集の西田教授、肝臓がんの血液での早期発見について、更にごく最近血液検査機器大手のシスメックスと神戸大（国際がん医療研究センター）と共同運営すると発表がありました。更に新聞では神戸産官学がバイオバンク―医療産業都市に新機能―集積加速促す。神戸大は製薬企業などとの共同研究を通じて一定の成果が出れば、収益が期待できる。すでに数社からその話があり年間で数十社以上の共同研究を目指す。武田学長『医療･創薬の革新に期待できる』と意気込む。収益＝利潤となると会社がらみとなるのでそこにはまた難しい問題が浮上することも考えねばならないでしょう。

2．先進校に追いつき追い越すには

医事新報2019年５月３週号で医療の近未来予想図の特集が組まれており投稿者41名のうち役半数の19名の方が教授または名誉教授でひょっとして神戸大関係の先生がいらっしゃるかと血眼になって探したが残念ながら見出されませんでした。お読みでない方のためにそのごく一部を紹介します。千葉大学の中山俊憲先生です。先生の肩書きをご紹介しますと、千葉大学大学院医学研究院長、医学部長、教授、千葉大学未来医療教育研究機構機構長、副学長です。「若手研究者･研究医の活躍が開く未来医療：[治療学]研究の推進と人材育成」と題してのご投稿でした。千葉大学は最初、文科省グローバルCOEプログラム「免疫システム統御治療学の国際教育研究拠点」に採択され、次いでリーディング大学院プログラム」「免疫システム調節治療推進リーダー養成プログラム」に採択されました。どちらのプログラムも免疫学研究を推進する観点から、大学院教育と研究拠点形成を進めており、両プログラムで150名以上の博士課程大学院生に十分な奨学金を授与し、研究に専念できる環境を整えました。特に神戸大が採択されなかった大学院リーディングプログラムでは手厚い奨学金が措置されたそうです。ご承知のようにこれまで千葉大学は食道がん手術の中山恒明氏、川崎病発見の川崎冨作氏、免疫学の多田富雄氏ら、日本を代表する優秀な医師を輩出した。従って、これらの先進校に追いつくだけでも容易なことではありません。ましてや追い越すに至っては…

3．最後に

この度私は母校の更なる発展を祈る気持ちから些少ながら（私にとっては清水の舞台から飛び降りる気持ちですが。）研究資金を寄贈させていただきましたが、教育研究資金の上に私の姓名を冠して頂くことになりました。（これは神緑会顧問→医学部長→学長さんのご判断を仰いだものです）大変面はゆい気持ちですが一人でも多くの方があとに続いて下さることを切望してやみません。以上、超高齢（95才）、浅学非才の身ゆえ思いの半分くらいしか書けません。先生方には大変失礼なことを申し上げたかと存じますが何卒お許しいただきますように。有難うございました。

4．外野席から

微かな声が —— 去年の医大不正入学問題で国立では神戸大だけが新聞に載っていた。早速或る卒業生はこんなことでは神緑会を退会させてもらいたいとの連絡があったようです。それはともかく、新聞に出る限りは大学当局の何らかのコメントが必要だと思うのですが、どうも大学本部の対応待ちで、医学部からは情報発信されませんでした。過疎地域の医療対策として文科省も地域枠の入学を認めていただけに。故正路学長（県立医大）なればカンカンになって文部省に乗り込んだと思います。その後、確認しますと、第三者委員会が設置され、最終的には、学長による医学部長、医学科長への口頭注意が行われた事が学長のページに掲載されていました。日本の縮図とされる兵庫県は、日本海側の但馬地方の医療を守ることが要望され、その上、高いレベルの学生の確保に努力されることを期待します。　　2019年12月

49クラス会

菱川　良夫（昭和49年卒）

２年近く前のことになりますが、2018年10月13日（土）午後５時より、神戸ポートピアホテル「和楽の間」で、医学部49年卒同窓会が２年ぶりに開催されました。

100数名のクラスでしたが、出席者は34名でした。今回の２名の幹事は、筒泉先生と私（菱川）でした。筒泉先生がほとんど事務的なことをしてくれて、私は、ホテルの部屋の確認や食事の確認、予算が超えないように交渉をする役でした。当日は、３時間の会でしたが、食事を30分した頃から、一人一人に近況を話していただきました。私の予定では、一人２分として、34×２＝68分で終わると思っていましたが、皆さん、しゃべる、しゃべる。年齢が行き、しゃべることに慣れていることもあるのでしょうが、とにかく止まりません。私が司会をして進行していたのですが、終わるときには、120分以上たっていました。それから、学士院賞を受賞された清野　進先生に、花束贈呈、記念品授与を行い、全員で記念撮影をしました。あっという間の３時間でしたが、皆さん楽しんでおられました。翌日には、恒例のゴルフコンペが９名の参加者で開催され、山名先生が優勝されました。

古希を過ぎた同級生ですが、益々楽しくしていきたいと思っています。次回は、2020年秋に開催の予定をしていましたが、新型コロナウイルス感染の流行により、中止となりました。

2019年10月に、同級生相互の親睦を図り、情報を共有する目的で、メーリングリストが開設されて、30余名が参加しています。49クラス会のメンバーで参加を希望される方は、管理している西垣正憲先生のメール（n.enfant.c@gmail.com）に連絡下さい。

前回の同窓会が開催されてから、３名の方の訃報が届きました。北　昭仁先生（2019年４月１日）、越田光伸先生（2019年７月26日）、大上知世先生（2019年９月23日）、のご冥福をお祈りいたします。

なごみ会

加古川中央市民病院　救急科　切田　学（昭和53年卒）

～30年間の同窓会を振り返って～

どの学年（クラス）にも世話好きはいる、数名はいるはずである。昭和53年卒業の世話好きは、岡田先生、澤田先生、益子先生、そして私切田である。同窓生から任されたわけでもなく、「なごみ会」（昭和53年卒業同窓会）の永久幹事を買ってでている。私は、この４名を「同窓会やろう！」と名付け、同窓生も承知している。

この「同窓会やろう！」の４名が同窓会開催年の３月に集まり、同窓会の会場、会期、会費などを決めている。その案内と出欠管理、会計管理を、私がいつも担当している。断れない、超世話好き。そんな気質、性格だから、今も現役救急医として救急医療最前線で働けるのだろう、と勝手に自己暗示している。

30 ～ 20年前は、同窓会案内はコピーして、同窓会時の写真（小グループ、全体）は現像して（数年後からは自宅のプリンターでつるつる写真紙にプリントして）、学生時代の住所録や同窓生からの情報をもとに同窓生全員に郵送していた。１ケ月はかかる大仕事であった。しかし、インターネットの普及にともない各自がe-mail address（現在同窓生75名ほど）を持つようになった2000年以降は、前述の大仕事をe-mail（添付）で行っている。また、同窓会参加費も当日会場支払いから事前銀行振り込みに（出席確認）、ドタキャンを気にせずに同窓会を開催できるようになった。同窓会にかかわる仕事（作業）は、数段いや100倍も楽になった。

さて今回の「なごみ会」（昭和53年卒業）同窓会は、2019年８月18日（日曜日）にホテルオークラ神戸で行った。３年ぶりである。1993年開催（40歳代）から５年ごとに開催していたが、2003年開催（50歳代）以降は先が心配になってきたのか、３年ごとの開催となった。夕刻の開催、２次会、希望者は宿泊、といったプランで開催してきた。還暦を迎えてから、宿泊より日帰りに、お酒も弱くなってきた、との声がちらほら聴かれるように。「同窓会やろう！」も、今回は日帰りで一致、13時開催となった。残念ながら、以前の集まり（40名前後）に比べ27名と少なかった。次回はもっと集まってほしいと願っている。

ホテルオークラ神戸34階メイフェア、神戸の海が一望できる部屋で（３年前は六甲山が一望できる部屋）、神戸の海をバックに会食、各テーブルでわいわい、そして恒例の各自の近況報告。最後に、全員集合して記念写真撮影、あっという間の２時間であった。

今回の近況報告でよく聞かれたスピーチ・ワードは、「ハッピーリタイヤー…」、「年金が少なすぎる…」、「職員とうまくつきあう…」、「働き方改革…」、「孫が…」、「いつ着地するか…」、「なんちゃって内科医を…」、「シルバーカレッジに…」、「リタイヤ医師バンクをつくって…」、「開業医を閉めるにそう簡単には閉められない…」など。

思い出してみると、27年前（1993年）の同窓会では、40歳前後の働き盛りもあって、将来の夢を語るスピーチ・ワードが多かった。その勢いで５年後（1998年）には、同窓生の慶弔費として各自１万円を徴収することにもなった（その徴収も私が行った）。しかし、2003年（50歳代）の同窓会では、夢のあるスピーチ・ワードは聴かれなくなり、「うちの子供がプータロー…」、「…ニート…」、「…うちの子供が結婚しない…」、「…年老いた両親の世話を…」、と現実的なスピーチ・ワードが多くなった。歳をとるにつれて、時代の流れにつれて、近況報告のスピーチ・ワードは変わっていった。

次回の「なごみ会」（昭和53年卒業）同窓会は2022年夏ごろに予定している。早く新型コロナウイルス感染禍が終息し、多くの同窓生が元気で集えることを願っている。その時、近況報告でどのようなスピーチ・ワードが聴かれるか、ひそかに楽しみにしている。

最前列、中央の「緑のペナント」（切田がもっている；その向かって左隣はもう一人の寄稿者樗木君です）に関して20数年前に慶弔費名目で徴収した数十万円が支出されることなく、私（切田）の手もとに残ってしまった。同窓生の了解をえて、「なごみ会（昭和53年卒業同窓会）」として、2013年に「iPS細胞研究基金」へ、2019年に「神戸大学医学部創立75周記念事業年－神戸病院創立より150周年－」と「神緑会」に寄付しました（残金は数十円に）。このペンナントはその感謝の証として神緑会から「なごみ会」に贈られたものです。

前列中央左　樗木先生

53の皆さまへ　同窓会の翌週 日曜日（８月25日）まだ日差しは夏でしたが、さわやかな風は気持ちいいものでした。

いつもは同窓会の翌日に開催されていましたが、日帰り同窓会になったので、今回は次の週の日曜日になったようです。岡田先生（前列、向かって左端;「同窓会やろう！」）は「たかが医者のゴルフ」（友月書房）を出版するほど、ゴルフの業はプロ級です。

日本医師会理事　**樗木　等**（昭和53年卒）

令和元年の同窓会を終えて…

自己紹介をします。私は昭和47年入学で、サッカー部に所属し、仲間に支えられ、楽しい大学生活６年間を神戸で過ごしました。昭和53年卒業と同時に東京女子医科大学心臓血圧研究所に心臓外科として入局したために、仲間との交流が疎遠になりました。

東京で６年間の研修を終え、昭和59年、縁があり佐賀医科大学胸部外科に入局しました。佐賀医科大学は新設医科大学で、胸部外科教授にアメリカの現役心臓外科医アルフォンス・宮本先生が教授として赴任され、多枝冠動脈バイパス（当時の日本では多枝バイパスは一般的ではなかった）の修業を目指しました。その後、平成３年、佐賀医科大学近くの佐賀県立病院好生館（1858年設立）の心臓外科部長で異動し、そこで副館長、館長を拝命し、平成28年定年退職となりました。その後は、公益財団法人佐賀県健康づくり財団の副理事長で現在にいたっています。のんびりと日常を過ごし地域の医療従者の皆さんに遊んでいただいています。

私は鹿児島県出身ですが、このまま佐賀県人として過ごしていく予定です。余談ですが、薩摩と肥前の関係は、佐賀の乱で大久保利通が江藤新平を処刑しており、県民感情はいかがなものかと心配もしましたが、ほとんど話題にならず安心したことを覚えています。佐賀県人は概ねのんびりした性格のようです。

今回は３年振りの同窓会で楽しみにしていました。３年も経ち、還暦を過ぎると櫛の歯が抜けていくのは自分を含めておどろかない昨今です。今回は皆息災との事で先ずは喜ばしいことでした。最近は、私のように遠方から参加する者に気づかい、日帰りが可能なように市内のホテルで午後帯を使っての開催で感謝です。

同級生の中で核になる仲間がいることが同窓会を継続していく牽引力で頼もしい限りです。短時間ではあるが、さりげなく各自の近況報告を聞くのが楽しい。私のように現役を引退したものが意外と少ないのは喜ばしい。開業医は生涯現役であるが、勤務医でも質量を調整すれば地域医療で活躍できる。否、現役同等に活躍している者もおりプロフェッショナルオートノミーで生涯活躍は可能である。齢を重ねてこそ女性医師の活躍も期待したい。

私も少しは仕事をしています。財団での健診業務と組織運営です。佐賀県医師会の勤務医常任理事として、医療倫理、医療安全、地域医療、終末期医療などを担当しています。直近では終末期医療ガイドライン策定やACP人生会議の周知啓発などをしています。

次回の同窓会も３年後の予定となっていますが、きっとアッと言う間で、何とか元気で参加して、皆さんの活躍ぶりと人生の楽しみ方に触れたいものです。

新須磨病院　院長　澤田　勝寛（昭和53年卒）

樗木（おおてき）　等（ひとし）君
日本医師会理事就任によせて

53年卒の樗木等君が、この度日本医師会の理事に選ばれました。彼の経歴については、本人が本誌の同窓会だよりに寄稿しているので参考にしてください。

私は民間病院の役職にありながら、医師会活動とはほとんど縁がありませんでした。今回の日本医師会長選挙で執行部が入れ替わり、選挙の翌日、理事に「樗木等」という名前をみつけたと、同期の岡田幸也君から連絡がありました。樗木をオオテキと読める人が少ない珍しい名前なので、たぶん同級生の樗木だろうと思ってはいましたが、念のために確認したところ、本人に間違いないことが分かりました。

そこで、学生時代から親しかった私にお祝いのメッセージを書くようにと、岡田君から依頼があり、この文章を書いています。

私より一歳上で、入学当初から目立つ存在でした。早生というか、本当に大人びており、何事に対しても冷静で落ち着いていたのを覚えています。同じサッカー部ということ以上に、ガキのような私とは何となく気が合い、サッカーの練習が終わると、授業をさぼり、京都へ湯豆腐を食べに行ったり、ボーリングをしたり映画を見たり、共に過ごした青春時代を懐かしんでいます。

勉強に関しては、私は劣等生、彼は優等生でした。頭も要領もよく、英語はペラペラで、専門課程入ってからは、ノートは全部英語で書いてあったので、試験前にノートを借りても私にとっては何の役にもたちませんでした。その頃から、卒後は神戸大学を離れ、当時の心臓外科のメッカ東京女子医大をめざしていたのだと思います。

卒業してすぐに東京に行き、東京女子医大で心臓外科の腕を磨きました。その後、佐賀医科大学胸部外科、そして佐賀県唯一の県立病院である佐賀好生館の館長を務め、退職後は公益財団法人佐賀県健康づくり財団の副理事長の任にあったのは、同窓会だよりに彼が寄稿している通りです。

その彼が、このたび日本医師会の理事に選任されたわけです。前述のように、私は医師会活動には縁がなく、医師会とは伏魔殿のような存在で、開業医の利益擁護団体であると固く信じてきました。そこに、私の知っている医師の中では最もゼネラリストであり、またスペシャリストの外科医だと思っている「オオテキ」が選ばれたわけです。聞くと、勤務医の代表としてボードメンバーに入ったそうです。

身近に日本医師会の理事になった人はいませんし、その仕事がどんなものかは想像もつきません。ただ、彼のようなゼネラリストを理事に選任する日本医師会の懐の深さは、正直いって意外でした。右を見ても左を見ても、コロナコロナでいい話がない中、同級生が日本医師会の理事に選任されたというのは、久々の明るいニュースで、嬉しくなりました。

彼の活躍で、日本医師会が良識の府として、国民からも信頼される組織になることを期待してやみません。

オオテキ！頼んまっせ!!

クラス会便りのご寄稿をありがとうございました

新型コロナ感染症の影響により、支部会同様クラス会も中止や延期となる中、クラス会便りが寄稿されました。

今回は、昭和24年卒クラス会便りをご寄稿いただきましたクラス代表の坂上先生を筆頭に、49クラス会筆者、菱川先生、なごみ会（昭和53年卒）クラス代表の切田先生におかれましては、お忙しい中ご寄稿いただき誠にありがとうございました。

クラス会便りにつきましては学術誌にご寄稿いただいておりましたが、カラー印刷のニュースレターへ掲載されていただくことになりました。
周知が徹底しておらず原稿依頼等の不手際のため掲載漏れがあり、大変ご迷惑をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。

次号以降も引継ぎご寄稿をお待ちしております。

※クラス会が中止または延期となった場合はその旨ご寄稿いただき、会員同士の交流にぜひ紙面をご利用ください。

支部会便り・クラス会便り　投稿規程

掲載予定　ニュースレター第12巻第3号

締 切 日　**令和2年10月31日**
10月末に間に合わない場合はご連絡いただけると幸甚です。
（間に合わない場合、分量が多い場合は次号に掲載します。）

テ ー マ　支部会便り／クラス会便り

字　　数　半頁（1,000字）～1頁（2,000字）前後
集合写真等を1枚お願いします。

送 付 先　小野高速印刷株式会社　同窓会支援事業部
〒670-0933　姫路市平野町62
TEL：079-281-8837　FAX：079-281-8839
E-mail：kobemed@ohp.co.jp
※上記アドレスまで送付ください。E-mailで送付いただく際は件名に**ニュースレター**とご記入くださいますと幸いです。

神戸大学医学部 部活紹介リレー

男子バレーボール部

中島　康太（医学部医学科４回生）

こんにちは。男子バレーボール部です。このたびは男子バレーボール部が部活紹介に選ばれて大変光栄に思います。謹んで紹介させていただきます。

まずは簡単に活動内容を紹介させていただきます。月曜日、木曜日、金曜日に練習をし、週末にはときどき練習試合をしたり大会に参加しています。６年生の夏まで部活を続ける部員も多く、現在部員は20名ほどで活動しています。前回部活紹介のあったバドミントン部とくらべると大所帯というわけではありませんが、負けず劣らず活気にあふれていると思います。

バレーボールはチームスポーツです。個人個人の成長はもちろんのことチームとして成長していくことが大切です。仲間のことを信じ、ボールを落とさないようにつなげチーム一丸となって戦うことができるのがバレーボールのいいところだと思います。また現在の医療におきましてもチーム医療が大切になっております。チームスポーツをすることはひいては将来チーム医療をするためのいい経験になると思います。

次に大会について紹介させていただきます。大小合わせると１年で10個程度の大会があります。このように月に多くの大会があるため部員一同モチベーションを高くもって日々の練習に励むことができます。また大会に参加するだけではなく運営もすることが特徴だと思います。毎年春に規模の大きな大会があります。男子の部と女子の部の両方があり、参加校は男子の部だけでも40校です。この大会を毎年神戸大学が運営します。このような経験をすることで日々不自由なく部活動をできていることに対する感謝をかんじ、また社会にでたときの糧になると思います。

このようにバレーボールばかりしているように思われますがそればかりではありません。夏にはBBQをしたりキャンプにいったり、冬にはスキーをしたりと練習も遊びも全力です。学年の垣根をこえて遊ぶからこそバレーボールも大学生活も楽しくなるのだと思います。

今私たちが不自由なく部活動に集中できるのは、卒業生のOBのみなさんのお力に他なりません。この場をお借りして感謝の言葉を述べさせていただきます。

OB会などで先生方とお話しする機会があるたびにご支援いただいていることをありがたく思います。今後の大会でもいいご報告ができるよう努力しますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

さて、新入生のみなさん大学生活は慣れましたか。今年度は入学してからオンラインでの授業であったり部活ができなかったりと異例なことづくめで大変だったと思います。男子バレーボール部は初心者も経験者も大歓迎です。ぜひ一度見に来てください。マネージャーも募集しています。それでは楽しい大学生活を過ごしてください。

クラシック音楽愛好会

部長　**須賀　伝史朗**（医学部医学科４回生）

こんにちは。クラシック音楽愛好会、略してクラ愛です。文化部の第１弾としてクラ愛が選ばれたことを大変喜ばしく思います。それではクラ愛の活動について紹介させていただきたいと思います

クラ愛はクラシック音楽愛好会という名前から、クラシック音楽のみを演奏したり聞いたりする団体と思われがちですが、部員の多くが吹奏楽部出身でクラシック未経験であったり、大学に入って初めて音楽を始めた人もいます（中にはクラシックなんて嫌いだと言う人も笑）。決まった活動日はなく、基本はいつでも部室を使うことができ、好きなときに練習をすることができます。クラ愛は特に運動部と兼部している人が多いですが、活動の自由さもあって、皆が両立して活動することができています。そして運動部とは違ってクラ愛には引退という概念がないので、６回生でも国試直前まで活動している人もいます。主な活動は夏と冬に行われる大きなコンサートであり、このコンサートは４回生の幹部が中心となり、部員全員で仕事を回して運営しています。コンサートに参加するかどうかは部員の自由であり、またどのような曲を演奏しても良いので、自分の演奏したい好きな曲があれば、部員を誘ってアンサンブルを組み、コンサートに参加

することができます。ヴァイオリン、ピアノの独奏はもちろんのこと、クラシックギター独奏、サックスアンサンブル、弾き語りなど、演奏される楽器は多岐にわたり、曲のジャンルもクラシック、ポップス、ジャズなど多岐にわたっています（私はフルートを演奏しているので、木管５重奏*1を組むときには、オーボエの井上まりさん、クラリネットのOBの前田葉月先生とよく一緒に演奏していました）。特に冬のコンサートでは、コンサートに参加した部員全員で演奏する「全体合奏」というものがあり、オーケストラの編成でクラシックの名曲を演奏しています（去年はビゼー作曲「カルメン」の組曲を演奏しました）。初心者でなかなかアンサンブルは組めないけど全体合奏だけには参加する、という人も多いです。そしてなんといってもこの全体合奏を指導してくださっているのは、我がクラ愛の１期生でもある青山伸郎先生です。青山先生が今でもクラ愛を支えてくださっていることで、より活動の幅に多様性が生まれており、大変感謝しております。

年２回の大きなコンサートの他にも、新歓コンサートやクリスマスコンサート、院内コンサート、依頼演奏も行っています。クリスマスコンサートはその名の通りクリスマスに行うコンサートで、規模は小さいですがより自由度が増し、大きなコンサートではできないようなちょっとしたネタを入れたり、サンタやトナカイのコスプレをしたりと、楽しく演奏をしています。依頼演奏では、淀川キリスト病院や本村整形外科などの場所で患者さんに演奏したり、神戸大学病院の式典でバックミュージックとして演奏したりと、様々な場所で演奏をさせていただいております。

このように、クラ愛は一年を通して多くの演奏機会があり、１回生から６回生までが学年関係なくアンサンブルを組むことができます。そして部員のやりたい音楽や聴いている音楽の趣味も様々なので、部員同士で演奏を聞き合うことによって、自分の中の幅を増やすことができます。実際に私は中学の頃からクラシック音楽１本でやってきましたが、クラ愛に入ってから吹奏楽部出身の人などと一緒に音楽をすることで、凝り固まった自分の音楽感を変えることができました。そしてクラ愛には楽器初心者からプロのように上手い人まで様々な人がいますが、このような人たちが同じようにコンサートに出て演奏できるというのがクラ愛の素晴らしいところだと思います。クラ愛を作り今まで支えてくださったOBの方々、この部活の素晴らしさを教えてくださった先輩方、そして一緒に演奏してくれた同期や後輩たち、本当にありがとうございました。私もまだまだ６回生までクラ愛で活動していきたいと思います。

さて、今この文章を書いている頃はちょうどコロナ禍で、授業もずっとオンラインで部活も全くできないという状況にあります。そんな中での新歓の手段として、我々は、「オンライン新歓」という形を取りました。オンライン新歓は自宅にいながら参加することができるので、多くの一回生が参加してくれました。またオンライン新歓の一環で、部活がない中でも皆と音楽をしたいということで、各自が録音してそれをつなぎ合わせるという「リモート演奏」も行い、クラ愛の魅力を一回生に発信することができました（詳しくはTwitterの@kobekuraai2020をチェック）。もしこれを読んでくれた一回生の方がいれば、クラ愛はいつでも入部を歓迎しています。音楽はいつ始めても遅くない。

*1木管五重奏：木管楽器を主体とした管楽器による５重奏のことであり、一般的にフルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルンによって構成される。

初期研修医　**小坂　優実**（平成30年卒）**よりバトンタッチ**

研修医日記　Vol.2

研修医２年目　**戎　直哉**（平成30年卒）

今回は小坂先生からバトンを頂きまして研修医日記を書かせていただきます。ということで自分自身の研修医としての日常や働き始めて感じたこと、休日の様子などを少し紹介したいと思います。

まずこの２年間ですが、たすきがけコースで１年目は神戸労災病院、２年目は神戸大学病院で研修させてもらっています。１年目は消化器内科、総合内科、循環器内科、救急科、外科、麻酔科と初めから決まっていて、２年目の今年は選択できたのですが自分の志望科が決まっておらず、放射線科、感染症内科、消化器内科、循環器内科と一ヶ月ごとに研修科を変えている状態です。

１年目は、医学もそうですが社会的な仕事としての経験が足りず、医学的には知識がある時でも実際にどのように考え行動すれば良いのか分からず困ることが非常に多かったです。ただ、そんな中でもコメディカルの方や先生方が助けてくださって、人との繋がりの重要さを感じ、周りの方々に感謝を感じる日々となりました。

医学的なことに関しては、スーパーローテート方式が研修にとって非常にありがたい環境でした。志望科を決める（もう決まっているはずの時期ではあるのですが…）という点においても勿論ですが、広く基本が見られるということが病棟で様々な背景を持っている人を診察する上で非常に役立つ経験になっています。

次に、２年目大学病院を回ってみてですが大きな違いとして人の多さ、科の多さがあります。勿論、上の先生方が多いという点で勉強になることもありますし研修医が多いことも良かったです。初めは前回の小坂先生も書いていたように研修医ごとに席も決まっておらず居場所が無くなるのではと思っていましたが、共有のスペースがあり共有の知り合いがいて共通の職場で働いているということだけで十分交流の機会がありました。様々な志望科や趣味を持っている人もいて今はコロナウイルス感染症のこともあり外で話す機会はないですが、生活に刺激をもらえています。あとは、教育機関ということもあり研修医ミーティングという様々な科の先生がレクチャーをしてくださる機会があったり、それ以外でも教育に力を入れてくださる先生が多い印象があります。

その他、休日の様子などもということでしたが今年はコロナウイルスの影響でほぼ職場の人とは交流などできず、家でのんびり過ごす日々で残念ながらここで書くようなことがありませんでした。ただ、例年はスポーツをしたい人を募って皆で集まったり年度初めに行ける人たちで集まって食事をしながら交流を深めたりと自ら望まない限り孤立はしづらい環境ではあるそうです。来年も続いているかは分かりませんが、１年目と２年目（２年コースのみ）の研修医でグループが組まれ２年目の研修医から困ったことがないか相談に乗るような制度もできているそうで、一年目の病院でもこの制度があればより気軽に相談できたのではと羨ましい限りです。

まだ、コロナウイルス感染症は終息しそうになく大変な日が続きそうですが周りの環境に感謝しながらこれからも精進していこうと思います。

戎先生は左から５番目のピースをしているイカリマークの付いた水色ユニフォーム

研究者だより　Vol.2

～「人生万事塞翁が馬」呼吸器内科の研究室から～

神戸大学大学院医学研究科　内科学講座呼吸器内科学分野　助教
永野　達也（平成15年卒）

2020年５月25日の14時、少し緊張しながら人生で初めての記者会見を迎えることになった。新型コロナが日本でも猛威をふるい、少なからぬ院内感染が報道されている最中のことであった。医師としての使命感から第一種感染症指定病院の兵庫県立加古川医療センターの応援に赴き、そのご縁で行わせて頂いた血清疫学調査で「医療従事者の感染が全く見られない」という大変意義のある結果を得た。感染対策をきちんと行えば、新型コロナも防ぐことができるという大発見である。この時、私は学生時代に通っていた生化学教室で、指導医の先生に勧められて読んだ石坂公成先生の著書のことを思い出していた。アレルギーに関与するIgEを発見された石坂先生は、若い研究者に「研究で自分の仮説とは違う真逆の結果が出たら、それは大発見かもしれないから悲しまずに喜びなさい。」と説かれていた。人生万事塞翁が馬、何事にも一所懸命に打ち込んでいたら何が幸いするかわからない。だから、研究はとても面白いと思っている。

この原稿の依頼を頂いてから改めて振り返ってみたが、私の研究人生は何が幸いするかわからない予想外のことの連続であった。幼少の頃から興味があった医学を神戸大学で学べることになり、学生時代は講義や医学書を読むことに夢中になっていた。医師として働くにあたり、医学研究でさらに人の役に立ちたい、研究をするのであれば死亡率がトップの肺がんを何とかしてみたいと考え、呼吸器内科の西村先生の門を叩いた。当時の呼吸器内科は循環器内科と同じ医局であり、両方に重点を置いた研修病院で研修をさせて頂くことができた。厳しくもあたたかい循環器内科の先生方の指導のおかげで、呼吸器内科と同等以上の循環器内科の知識と技術を身につけることができた。西村先生の勧めで４年目から国立がんセンター東病院のレジデントに応募し、３年間がんの臨床と研究を学ばせていただく機会を得たのだが、循環器内科としての素養があり心エコーができる研修医は非常に珍しく、他科の先生から術前検査を含めた相談を受けるようになり、それがご縁で非常にたくさんの先生に懇意にして頂くことができた。神戸に戻ってから、大学院で片岡先生の生理学教室の門を叩いた際は、国立がんセンターで学んだ経験を高く評価して頂くことができた。大学院卒業後、テニュアトラック制度という研究者育成制度に採択され、様々な研究に取り組ませていただくことになるのだが、この制度を通じて神戸大学内の他学部の先生との交流が生まれ、工学部の先生と共同で病型分類ソフトを開発して、初めての特許を取得することができた。現在、咳をモニターする装置の開発で２つ目の特許を出願するに至っている。また、ナノ粒子が生体へ与える影響を解析する研究を立ち上げたが、この制度を通じてご紹介を受けた気象庁の先生や早稲田大学の先生たちとの共同研究に発展している。

「鉄は熱いうちに打て」は、精神が柔軟で、吸収する力のある若いうちに鍛えるべきである、ということわざで、循環器内科と呼吸器内科で代々受け継がれている若手医師を教育する際の精神である。たとえ自分

の興味や専門と異なる分野であっても積極的に取り組むことによって、また、チャンスをつかむために人の何倍も努力を重ねることによって、道は無限に広がってくるものだと思う。新型コロナの世界的流行がなければ、この秋から米国のコロンビア大学に留学して肺の再生医療を勉強する予定であった。やっと巡ってきたチャンスを心から楽しみにしていたが、執筆時点では感染は収束しておらず、渡航はできそうもない。しかし、腐らずに頑張っていれば何か面白い研究が日本で出来るかもしれない。そう考えて今日も一日一日を大切に研究に励んでいる。

神緑会員リレー随筆

執筆者の先生より、次の執筆者をご推薦いただき、リレー方式でつなぐ企画でしたが「神緑会リレー随筆②」は新型コロナウイルス感染症の影響により、最前線で頑張っていらっしゃる先生へ原稿依頼（バトン）が難しく一回お休みすることになりました。

次号のニュースレターで神戸神緑会会長・神緑会顧問の中野康治先生に、再びバトンを繋いでいただくことになりました。ラグビーにゴルフ、ワインとご趣味の多い中野先生のご寄稿をご期待ください。

武田学長を囲む会に参加して

2020年度「武田　廣学長を囲む懇談会」中止のお知らせ 並びに　昨年度のご報告

謹啓　新秋の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、12月５日（土）に予定しておりました６回目の「武田　廣学長を囲む懇談会」は新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、蔓延防止や安全確保の観点から中止決定することをお知らせいたします。

昨年度は、去る９月28日（土）の18時より楠公会館にて開催しましたのでご報告いたします。神緑会からは、前田顧問、木戸、竹山副会長、大林理事が参加しました。武田　廣学長からは「神戸大学の近況」というテーマでスピーチを賜り、近況報告や懐かしい昔話に花を咲かせ、他研究科の方々とも交流することができ、大変みのりのある会となりました。

募金報告

神戸大学医学部医学科創立75周年・神戸病院創立150周年 記念事業募金の終了と結果のご報告

はじめに

75年の倍が150年であり、わかりやすい巡り合わせの年に記念事業を行った。節目での出来事は、国立移管が昭和39年、法人の認可（神緑会 昭和59年）等で50周年記念事業（平成６年）での明治２年神戸病院の復元を目指した同窓会館の建設では、卒業生の半分以上の1,900名から寄付があった。(平成13年集計)

歴史の積み上げと全貌の把握

神戸開港50年史等で明らかであった神戸病院の所在地が具体化するのは、わずかに35年前の事であり、医学部40周年記念事業の頃、元医学部長溝井泰彦氏の喜びの寄稿「前身発見」が残っている。

寄付文化の醸成への足がかり

2012年昭和62年卒の山中伸弥氏のノーベル賞受賞後、山中先生の「寄付文化の醸成」の呼びかけによりiPS細胞研究への支援がスタートした。ふるさと納税等が役に立ったかは判断が難しいが、昭和24年卒坂上明先生の大口寄付と新型コロナの日本への流入前にほぼ募金活動を終える幸運もあった。

記念式典の成功と講演内容

予想に反して、大学の努力により1,000名を超す大成功の会となった。大学事務部と黒田WG委員長および実行委員の先生方の努力と県内医療をカバーする臨床の勢いの下、無料招待者300名を別に記念式典、講演、祝賀会が盛大に開催された。

特に山中先生のご講演はノーベル賞受賞内容にとどまらず、神戸大学の先輩諸兄の援助により現在の自分があることを具体的に述べられ、大変好感のもてる内容でした。

おわりに

いくつかの幸運の中、記念事業を無事終了することができました。厳しい医療環境の中で、募金人数とし

山中先生と学部学生の集合写真

ては50周年に迫ることができなかったが、若者達に未来医療センターの土台を見せることができました。詳細は別の機会に説明するが神緑会の当初目標２億円をほぼ達成し、別に高額の「教育・研究寄付金」を確保した。大変ありがとうございました。

＊坂上先生の多額の寄付に対する感謝と次なる局面のご紹介（P36）

参考：当初から個人の寄付金額を公表する意気込みでスタートしましたが、医学研究科執行部の判断により、学年単位の公表となりました。ご了解をお願いします。寄付者名は記念誌に掲載されます。

一般社団法人神緑会　顧問　前田　　盛
会長　木戸　良明

2020 年 4 月末時点

卒年（和暦）	クラス会	寄付金額	寄付者数（人）
昭和 24 医専		100,200,000	3
昭和 25 医専		100,000	1
昭和 26 医大		50,000	1
昭和 27		350,000	4
昭和 28		870,000	3
昭和 29	1,093,570	230,000	4
昭和 31		425,000	5
昭和 32		100,000	1
昭和 33		100,000	1
昭和 34		170,000	5
昭和 35	480,000	320,000	4
昭和 36		420,000	4
昭和 37		445,000	7
昭和 38		135,000	4
昭和 39		340,000	4
昭和 40		645,000	10
昭和 41		710,000	6
昭和 42		1,960,000	12
昭和 43（神戸大学医学部卒）	300,000	1,700,000	13
昭和 44		1,100,000	8
昭和 45		865,000	10
昭和 46		5,120,000	12
昭和 47		500,000	5
昭和 48		420,000	3
昭和 49		635,000	9
昭和 50		680,000	5
昭和 51		840,000	7
昭和 52		2,820,000	19
昭和 53	250,000	480,000	7
昭和 54		710,000	6
昭和 55		2,240,000	10
昭和 56		1,660,000	16
昭和 57		1,280,000	12
昭和 58		2,340,000	15
昭和 59		2,908,515	10

卒年（和暦）	クラス会	寄付金額	寄付者数（人）
昭和 60		1,050,000	14
昭和 61		2,540,000	21
昭和 62		340,000	5
昭和 63		800,000	5
平成元		645,000	6
平成 2		915,000	8
平成 3		650,000	5
平成 4		410,000	5
平成 5		780,000	7
平成 6	241,503	1,080,000	10
平成 7		420,000	5
平成 8		160,000	3
平成 9		1,090,000	13
平成 10		808,000	10
平成 11		520,000	6
平成 12		320,000	4
平成 13		340,000	6
平成 14		260,000	3
平成 15		130,000	3
平成 16		60,000	2
平成 17		50,000	2
平成 18		50,000	1
平成 19		910,000	4
平成 20		83,000	3
平成 21		30,000	3
平成 22		65,000	3
平成 23		140,000	3
平成 24		30,000	1
平成 26		100,000	1
平成 28		10,000	1
平成 29		30,000	1
正イ）		80,000	4
名誉		1,250,000	11
特別		6,060,000	33
合計	¥2,365,073	¥156,074,515	458 名

※東海支部よりご寄附頂いております。

坂上先生の多額の寄付に対する感謝と次なる局面のご紹介

一般社団法人神緑会　顧問　**前田　盛**

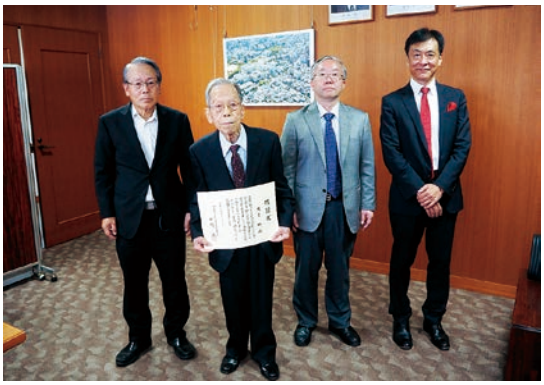
150・75周年記念事業に向けた寄付活動は、神緑会として２億円を目標として開始した。50周年記念事業として神緑会館（同窓会館）の建設を目指した時は、免税と非免税を組み合せた複雑なシステムで過半数の会員より寄付が寄せられた。60周年記念事業は時期を失した中で寄付建物の建設と共同研究館の改修を呼び水として、基礎棟の全面耐震改修へ進み、20億円ともいえる国費をつぎこんだ一大工事に発展した。50周年で２億円以上、60周年で１億数千万円の寄付額であったので、75周年では卒業生も増加したが、少しひかえめの２億円を神緑会の目標額とした。大学が３億円で合計５億円の目標額で動きだした。しかしながら、大学の動きが象徴的なように、新型コロナ以前であったが、極めて、寄付の集まりにくい情勢に驚いた。大学は、関連病院や出入り業者を含め、３億円を集める試算を発表したこともあったが寄付額は多くは期待できなかった。

そういった厳しい情勢の中で、坂上先生からは、指１本、１億円の寄付の提示を受けた。平成29年４月のことであるが、その年の年賀状で、「暖かくなったら、一度会いましょう」との知らせで、指定の場所に出向きました。指１本は、多分百万円かの予測がはずれて、大台の金額の提示でした。それ以後は、数ヶ月毎に大阪でお会いしたが、寄付の集まり具合を気に掛けていただき、暖かい気持ちを感じました。

令和元年９月１日の記念式典後、坂上先生からは神戸大学の研究支援の追加の提示があり、記念事業の目標額の達成前の不安な中で、最終的に教育・研究寄付金として、別枠の１億５千万円の寄付をいただくことになった。「坂上明　教育研究寄付金」、すなわち個人の名前を冠とした寄付金であり、長く坂上先生の名前を神戸大学に残すことになった。他にも同様のお申し出があれば個人名をつけた寄付金として、委員会で用途を検討し、大学の教育・研究を支援する予定です。

坂上先生からの高額の寄付をいただいた記念事業、次のステップの画期的な新しい体系へと進めることができました。

振りかえると、昭和24年卒の坂上先生とは、60周年記念事業としての座談会の開催でお目にかかった。その後のお付き合いで、開学の頃からクラスをまとめて発言されていたことや答辞を読まれたことは、すぐ、理解していったが、初めは20名程の出席者の１名でしかなかった。卒業後は、大阪でのご開業や大阪神緑会の初代会長を勤められました。言葉にはあまりされませんが、親交を深める中で母校愛を感じ、多額の寄付として足跡を残す方向で前例の無いほど、ご協力をいただきました。私自身も愛校心は、強く持ちあわせているつもりであったが、さすがに坂上先生の尽力には頭のさがる思いです。神戸大学で学び、研究する皆さんに強いインパクトを与えることは間違いありません。大いに感謝します。



「医学部内で感謝状を送った時の写真」
的崎研究科長、小川 WG 委員長、前田神緑会会長
2018 年 10 月　研究科長室にて

「学長、医学研究科長からの感謝状、千里タワーにて」
前田顧問 2019 年 12 月

CiRA便り

京都大学iPS細胞研究所　基金事務局　**砂留沙季子**

神緑会の皆様、平素は iPS 細胞研究所（CiRA）に継続的なご支援を賜り、誠にありがとうございます。
今号では、最新の研究成果等を紹介いたします。

ヒト iPS 細胞から別個に分化させた複数の腎前駆細胞から腎組織を再生する

腎臓の主な働きは、血液をろ過し、尿を作ることですが、その機能を担うのは腎臓の中のネフロンと呼ばれる組織です。ネフロンは、糸球体という毛細血管の塊から血液をろ過する構造とそこに繋がる尿細管で構成され、集合管と連結します。これまでの研究で、腎臓は主に２種類の腎前駆細胞注である後腎ネフロン前駆細胞と尿管芽の相互作用により形成されることが分かっていましたが、ヒトiPS細胞から別個に分化誘導されたそれぞれの腎前駆細胞から腎組織を作製することは難しく、分化培養システムを構築する必要がありました。

今回、辻本　啓 大学院生（CiRA増殖分化機構研究部門）、笠原朋子 元大学院生（元CiRA同部門）、末田伸一　元大学院生（元CiRA同部門）、および長船 健二教授（CiRA同部門）らの研究グループは、ヒトiPS細胞から後腎ネフロン前駆細胞と尿管芽それぞれに分化する培養システムを構築することに成功しました。その後、培養皿上で糸球体、尿細管などのネフロンの特徴を持った組織と集合管を連結させたヒトの腎組織を作製することに初めて成功しました。更に、生体内において移植した腎組織が血管と繋がることを確認しました。ヒトiPS細胞から選択的に分化させた複数の腎前駆細胞から腎組織を作製することに成功した本成果は、ヒト腎臓の発生生物学の新たな知見と腎臓疾患の仕組みの解明に繋がり、今後、腎臓の再生医療に向けた研究に大きく貢献できることが期待されます。

ラパマイシンの予防的投与は FOP モデルマウスの異所性骨化に対し優れた抑制効果を示す

進行性骨化性線維異形成症（FOP）とはACVR1という受容体遺伝子の突然変異により、全身の結合組織に異所性骨化（本来骨組織が存在しない部位に異常に骨形成が起こる現象）が生じる疾患で、これまでの研究からアクチビンAがACVR1に結合して骨化シグナルを伝達することが示されていました。異所性骨化には外傷を契機に生じる場合と、明らかな誘引なく形成される場合があります。

前川裕継 大学院生（京都大学CiRA増殖分化機構研究部門／医学研究科整形外科）、戸口田淳也 教授（京都大学CiRA 増殖分化機構研究部門／ウイルス・再生医科学研究所／医学研究科）らの研究グループは、FOPマウスを用いてmTOR阻害剤であるラパマイシンの予防的投与による異所性骨化形成の抑制効果を検証し、自然発生する異所性骨、外傷後の非損傷部位に生じる異所性骨が抑制されることを示しました。また、既に形成された異所性骨に対して、切除前よりラパマイシンの投与を行うことで、異所性骨切除後の再発が軽減されることを確認しました。これらの結果から、臨床面においてもラパマイシンの予防的投与による有効性が期待されます。

公益財団法人京都大学 iPS 細胞研究財団が本格的に始動

2019年度に設立しました京都大学iPS細胞研究財団が、４月１日付けで公益認定を受けました。このことにともない、iPS細胞の製造や品質評価などの技術を産業界へと「橋渡し」する機能をCiRAから財団に移管しました。同財団は最適なiPS細胞技術を良心的な価格で届けることを理念に掲げ、一日も早く患者さんにiPS細胞を用いた医療をお届けることを目指します。今後、CiRAは財団と協力し、iPS細胞を使った医療の実現を目指して研究を進めます。

iPS 細胞研究基金についてのお問い合わせ先

■ iPS 細胞研究所　iPS 細胞研究基金事務局

〒 606-8507　京都市左京区聖護院川原町 53
TEL：075-366-7152　FAX：075-366-7034
メール：ips-kikin@cira.kyoto-u.ac.jp
資料請求専用フリーダイヤル:0120-80-8748(平日８時30分～17時)

■ 京都大学基金ウェブサイト

「京都大学基金」で検索してください。URL は以下の通りです。
http://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/

神緑会では、神戸大学医学部医学科を昭和62年にご卒業され、ノーベル賞を受賞した山中伸弥教授を応援しています。ぜひ、基金へのご寄付をお願いします。

10月ホームページ更新

神緑会のホームページを更新します。

ホームページのコンテンツについては、主に既存分の移行になりますが、より多くの会員の方にご利用いただけるよう拡充を検討中です。ご期待ください。

■概要

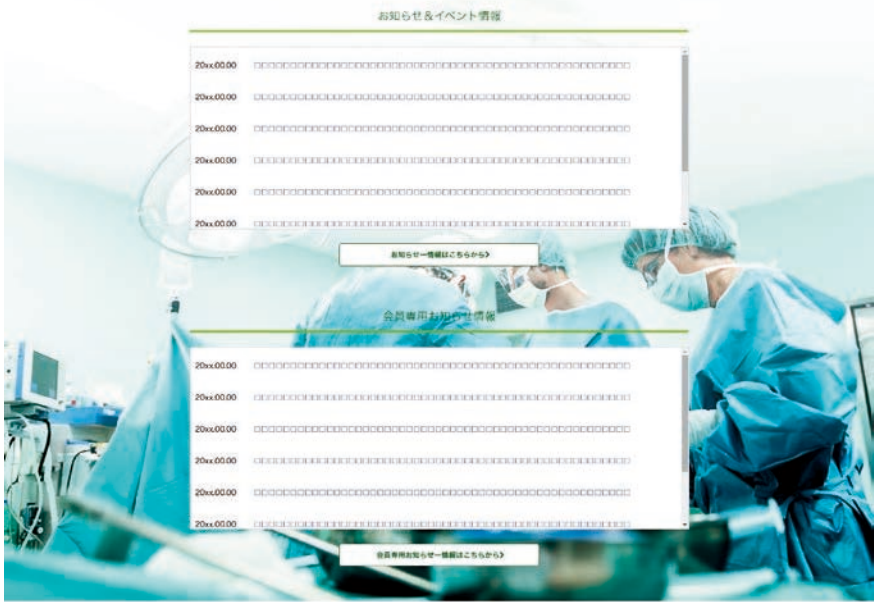
・ホームページのURL（https://www.shinryokukai.com/）

・更新後は、過去に配布したユーザー IDとパスワードはご利用いただけなくなりますのでご注意ください。

・ご異動は、専用のフォームよりご連絡いただくことになりますので９月30日をもって現在の個人ページはご利用いただけなくなりますので、ご了承お願い申し上げます。

・【shinryokukai】にて簡単にログインができるようになります。

(広報委員会)



北京料理
樓一第
神戸旧居留地
1947

編集後記

前号の編集後記を書いている時に、新型コロナ感染症に対する特別措置法に基づく「緊急事態宣言」の対象地域が全国で発出されました。あれから４ヶ月経過しましたが、いったん収まりかけたかに見えた感染者数が再び増加してきております。New Normalという言葉で表現される「新しい生活様式」も提唱されており、実際に私たちの生活もだいぶ様変わりしてきました。しかし、臨床現場におられる先生方にとっては、緊張が解けない日々が続いておられるのではないでしょうか。また、学生さんにとっても、遠隔授業が続いており、不安ややるせない気持ちで過ごされていることと思います。会員の皆様にもご案内しております「神戸大学コロナ基金」は学生や附属病院の支援を目的とした寄付ですが、多くの神戸大学関係者からのご寄付が寄せられております。他研究科のご父兄や同窓会からも多くのご寄付をいただきました。学生さんや病院への励ましのお気持ちに感謝しております。前号に引き続いて、今ニュースレターも発刊が遅くなり申し訳ありません。神緑会会員の活躍の様子をお楽しみいただければと思います。

（広報委員会）

神緑会
ニュースレター
第12巻第２号

発行
一般社団法人神緑会　会長　木戸　良明
〒650-0017
神戸市中央区楠町7丁目5-1 神戸大学医学部内
TEL 078-361-0616　FAX 078-361-0617
sinryoku@med.kobe-u.ac.jp

印刷
小野高速印刷株式会社
〒670-0933　姫路市平野町62番地
TEL 079-281-0008　FAX 079-223-3523
URL:https://www.ohp.co.jp/
http://www.dousou.info/

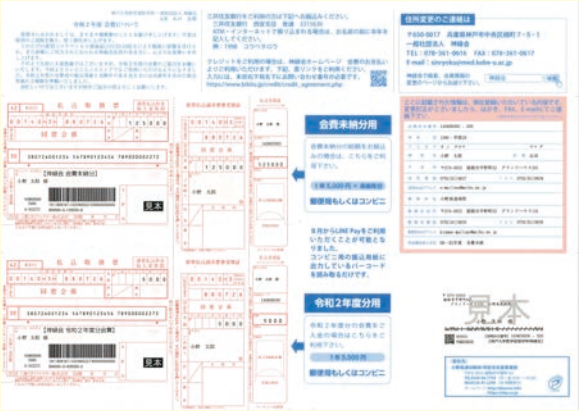
令和２年度神緑会費納入について

令和２年度会費（5,000円:令和２年４月～令和３年３月）の納入をお願いいたします。
神緑会の活動は、主に皆様からいただきました会費にて運営されておりますので、会費の納入にご協力くださるようお願い申し上げます。

２年分以上の未納入がある方には5,000円ずつ分割してお支払いいただけるようになりました。
※神緑会では金融機関の取扱い手数料の値上げに伴い収納業務経費削減のため、小野高速印刷㈱ 同窓会係に委託することになりました。
今後は加入者名「同窓会係」の口座に納入いただくことになります。
ご注意：神緑会の郵貯振替口座は一定期間を設けた上、廃止します。
（新）同窓会係　00140-3-880726
（旧）一般社団法人　神緑会　01150-0-29007

お支払い方法は下記よりご選択いただけます。

１．郵便局もしくはコンビニエンスストアにて納入いただけます。
※電信でご入金いただく場合はお名前の前に学校番号『**2273**』を入力してください。



２．三井住友銀行をご利用の方は名義人に変更はありませんので下記口座にお振込みください。
ATM、インターネットバンキングで振り込まれる方は、必ずお名前の前に卒年を入力してください。

三井住友銀行　西宮支店　普通3315630　一般社団法人　神緑会

３．クレジット決済の場合は、神緑会ホームページ「会費のお支払い」よりご利用いただけます。

神戸大学附属